



開校明治七年
開校146年目

宗岡小だより

学校教育目標

自分がすき・友だちがすき・町がすきな宗岡の子

育てる子供像 地域を愛し、誇りをもって、地域に貢献する子供

めざす学校像

「安全・安心できれいな学校」
「子供達一人一人の居場所があり、輝ける学校」

令和2年度 2月号

志木市立宗岡小学校

児童数 459名・学級数 18学級

住所 志木市中宗岡3-1-1

TEL 048-471-0307

2月の生活目標

礼儀正しくしよう

- ・すすんであいさつをしよう
- ・丁寧な言葉遣いをしよう

節分について

校長 石田 賢一

3学期が始まり1か月が過ぎようとしております。1月8日に新型コロナウイルス感染症拡大による2回目の緊急事態宣言が出されました。今回の緊急事態宣言では、昨年3月時と違い学校は臨時休業にならず、感染に十分注意しながら授業を行うことができています。学校において感染対策に取り組んでおりますが、日頃からの子供達の健康管理や体温計測など保護者の皆様のご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。子供達が残りの3学期を安心安全に学校生活を送ることができるように精一杯頑張っておりますので、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、子供達が大好きな伝統行事の一つである節分ですが、今年は2月3日ではなく、124年ぶりに2月2日が節分という大変珍しい年となりました。ちなみに2月3日以外が節分になるのは昭和59年(1984年)以来だそうです。昭和59年は2月4日が節分でした。1985年から36年間も2月3日の節分が続いたため、「節分=2月3日」と思われがちですが、今世紀後半の2057年から2100年の間は2月2日が節分になるのが4年に2度あるいは3度あります。今の宗岡小学校の子供達が40代~50代になるころには「節分=2月2日」が常識となるようです。

節分の意味は、「季節の分かれ目」ということがあり、季節が変わる前日のことを指します。季節とは、春夏秋冬の最初の日のことです。暦の上では「立春」「立夏」「立秋」「立冬」と呼ばれています。しかし、最近では節分といえば、豆まきを行う「立春」の前日のみを指すようになってきました。これは昔、春が1年の始まりと考えており、「立春」の前日が今でいう『大晦日』のように特別な日と捉えられていたからです。

節分に豆まきをするのは、季節の変わり目に邪気が入りやすいと思われており、新しい春を迎える前に邪気を払って幸福を呼び込むために宮中祭祀として行われていたものが始まりだそうです。豆まきには他にも意味があり、豆を自分の年と同じ数、あるいはそれより一つ余計に食べると、厄払いや悪いことから逃れることができるという考えがあります。子供達には、豆まきをする、しないに関わらず、一人一人の心の中にいるかもしれない「よくない鬼」を、この節分を機に、追い払って欲しいと思います。また、新型コロナウイルスも追い払うことができればとも考えています。

人生において節となる時や事柄を「節目」といいます。2月は子供達にとって、次の学年や中学校への進級・進学のための心構えをつくる大切な時期となります。子供達には「今までの自分」、「これからの自分」、そして、「新しいステージに進んだ自分」という、それぞれの自分の姿をはっきりとイメージしてほしいと願っています。人が成長するためには、今現在の自分だけを意識するのではなく、過去・現在・未来の自分を意識することが必要であると考えます。そうすれば、生きていく中で出会う様々な人や出来事に柔軟な対応ができ、失敗をしてしまった時もしっかりと現状を分析することができ、早く立ち直ることができる強い子供に成長することができるからです。

宗岡小学校の子供達が、過去・現在・未来の自分を意識して生活することができるようにしていきたいと思っております。

